



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

2022年度 第3四半期 決算説明会資料

2023年2月7日
株式会社UACJ



発表のポイント

第3四半期 前年同期比**増収**、棚卸資産影響前経常利益**増益 158億円**（前年同期比+3億円）
22年度通期業績見通しでは、**棚卸影響前経常利益 200億円**

1

■ 2022年度 第3四半期累計 総括

- ✓ 第3四半期累計では増益、第3四半期単独では自動車生産の影響を受けた
- ✓ 国内：自動車関連が市況影響を引き続き受けるも、エアコンフィン材等の一般材の販売が増加
- ✓ 海外：旺盛なグローバル缶材需要を捉え、TAA^{*1}/UATH^{*2}ともに増益

2

■ 2022年度 通期業績見通し

- ✓ 外部環境の変化に対応するも、自動車関連等の生産混乱影響を受け**実力利益は200億円**に変更
- ✓ エネルギー・添加金属の市場に連動した値決めスキームは計画通り2022年度下期から適用

3

■ 構造改革の進捗




- ✓ 各施策については予定通り進捗
- ✓ 構造改革効果**210億円**

*1 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc.

*2 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.,

外部環境の変化と対応について

外部事業環境の変化に強い収益構造の確立に向けた施策を実施

	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁は <u>予定通り3Qより実施</u>	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを <u>導入済</u>)	新規契約 市場価格連動の 価格スキームを <u>導入済</u> 既存契約の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを <u>導入済</u>		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を <u>導入済</u>)

1. 2022年度 第3四半期業績

2. 構造改革の進捗

3. 2022年度 通期業績見通し

4. サステナビリティへの取り組み

5. ご参考データ

1. 2022年度 第3四半期業績



業績 サマリー

第3四半期 棚卸資産影響前経常利益 158億円(前年同期比 +3億円)

第3四半期 経常利益 104億円(前年同期比 △ 255億円)

■ 数量 : 1,009千トン 前年同期比 +43千トン

- 缶材: UATH(タイ)、TAA(米国)が引き続き増加
- 一般材: エアコンフィン材は世界的なエアコン需要の取り込み、印刷版材は国内回帰により増加
- 自動車関連(自動車材、箔)、IT関連材: 半導体不足や世界的なサプライチェーンの混乱の影響を受ける

■ 棚卸影響前経常利益 : 前年同期比 +3億円

◎増益要因(構造改革効果を含む)

- 国内事業の改善
- UATH業績好調継続
- TAA業績好調継続

△減益要因

- エネルギー価格の上昇
- 自動車生産混乱の影響を受ける

第3四半期 業績

(単位:億円)

	2021年度 3Q累計 (A)	2022年度 3Q累計 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	5,627	7,283	1,657
連結営業利益	428	155	△ 274
棚卸資産影響前 連結経常利益	156	158	3
棚卸資産影響額	204	△ 54	△ 258
連結経常利益	360	104	△ 255
連結当期純利益*1	232	73	△ 159
Adjusted EBITDA*2	450	461	11

*1 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)

	2021年度 3Q累計 (A)		2022年度 3Q累計 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	5,023	467	6,474	199	1,451	△ 268
加工品・関連事業	1,186	3	1,471	△ 1	285	△ 4
(調整額)	△ 582	△ 41	△ 662	△ 43	△ 80	△ 2
合計	5,627	428	7,283	155	1,657	△ 274

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2021年度 3Q累計 (A)	2022年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	609	660	51
箔 地	43	35	△ 8
I T 材	11	7	△ 4
自動車材	105	92	△ 13
厚 板	39	41	2
その他一般材	160	174	14
合 計	966	1,009	43
	国内市場向け 355 海外市場向け 611	国内市場向け 357 海外市場向け 652	国内市場向け 2 海外市場向け 41

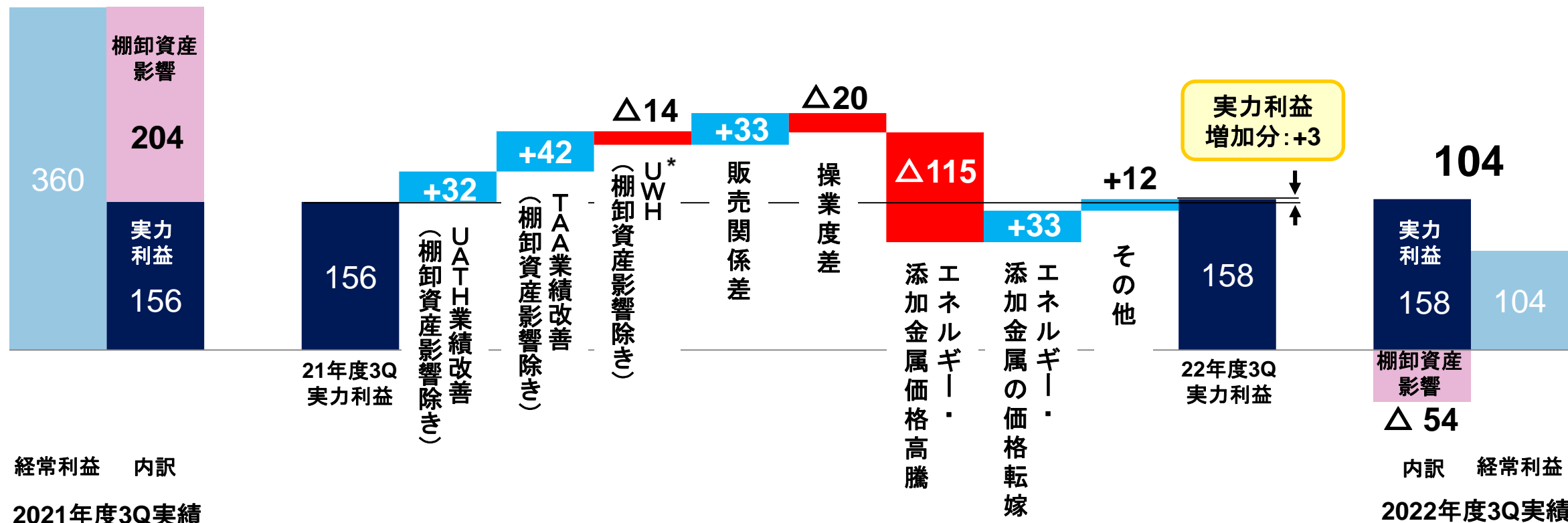
棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2021年度3Q累計 → 2022年度3Q累計)

棚卸資産影響前連結経常利益：156億円 (2021年度3Q累計) → 158億円 (2022年度3Q累計)

(棚卸資産影響額: 204億円 (2021年度3Q) → Δ 54億円 (2022年度3Q) Δ 258億円)

360

(単位: 億円)



* UWH : UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

連結貸借対照表、資金運用表

アルミ地金高騰により短期資金は不足も、財務基盤の源泉となる長期資金余剰を創出

連結貸借対照表

(単位:億円)	22/3末 (A)	22/12末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び預金	143	265	122
受取手形及び売掛金	1,227	1,376	149
棚卸資産	2,324	2,518	194
その他流動資産	252	389	137
有形・無形固定資産	3,985	4,073	88
投資その他の資産	356	391	35
資産合計	8,287	9,011	724
支払手形及び買掛金	1,186	1,256	70
短期借入金	1,419	1,925	506
長期借入金	1,975	1,792	△ 183
その他	1,231	1,299	66
株主資本合計	2,090	2,122	33
その他包括利益	190	411	221
非支配株主持分	196	206	10
負債及び純資産合計	8,287	9,011	724

資金運用表

	用途	調達
長期 資金	設備投資 177	税引前利益 93
	法人税等支払 80	減価償却費 278
	長期資金余剰 114	
短期 資金	運転資金増加 202	短期資金不足 202

長期資金余剰 114億円

短期資金不足 202億円

FCF △ 88億円

長期資金：財務基盤の強化の源泉となる資金の創出
短期資金：アルミ地金価格等高騰による運転資金の増加

連結キャッシュフロー計算書

アルミ地金上昇により有利子負債残高が増加するも、3Qより減少

2022年度3Q 連結キャッシュフロー

(単位:億円)

税引前利益 93

減価償却費(のれん含む) 278

法人税等 Δ 80

アルミ地金価格等の上昇による運
転資金の増加他 Δ 202

営業キャッシュフロー計 88

設備投資 他 Δ 177

フリーキャッシュフロー Δ 88

配当(非支配株主向けを含む) Δ 50

ファイナンススキーム他 53

有利子負債にかかる為替影響
(Δ は借入金増加) Δ 116

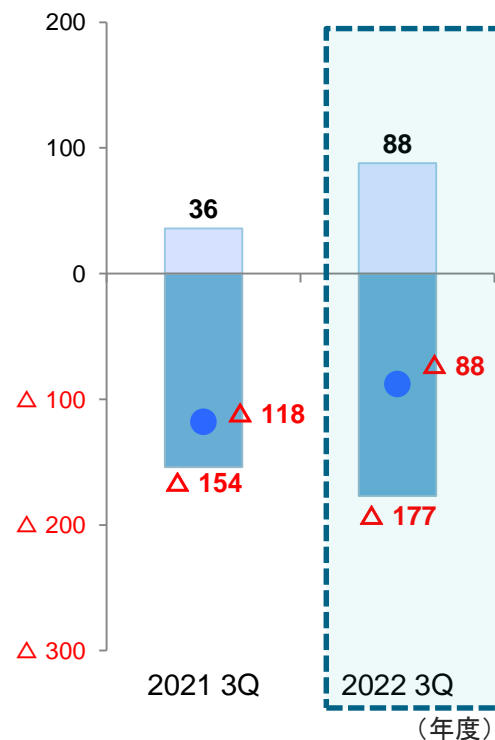
現預金増減(Δ は増加) Δ 122

有利子負債の増加 323

連結キャッシュフロー 推移

(単位:億円)

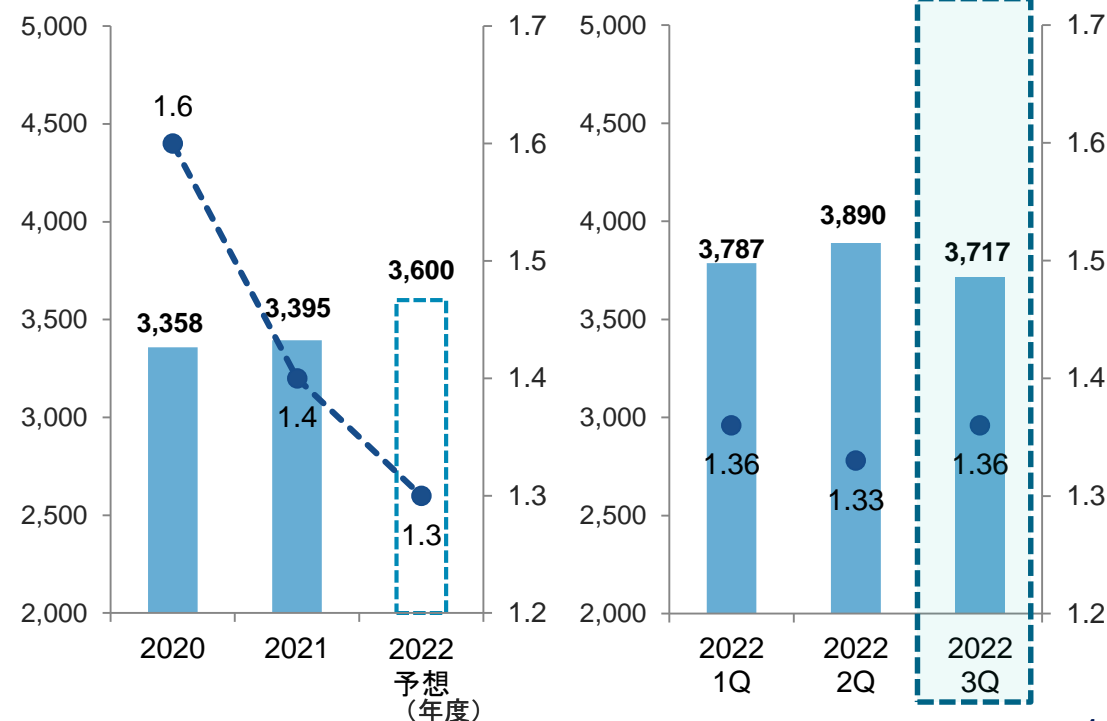
- 営業キャッシュフロー
- 投資キャッシュフロー
- フリーキャッシュフロー



有利子負債残高・D/Eレシオ

(単位:億円)

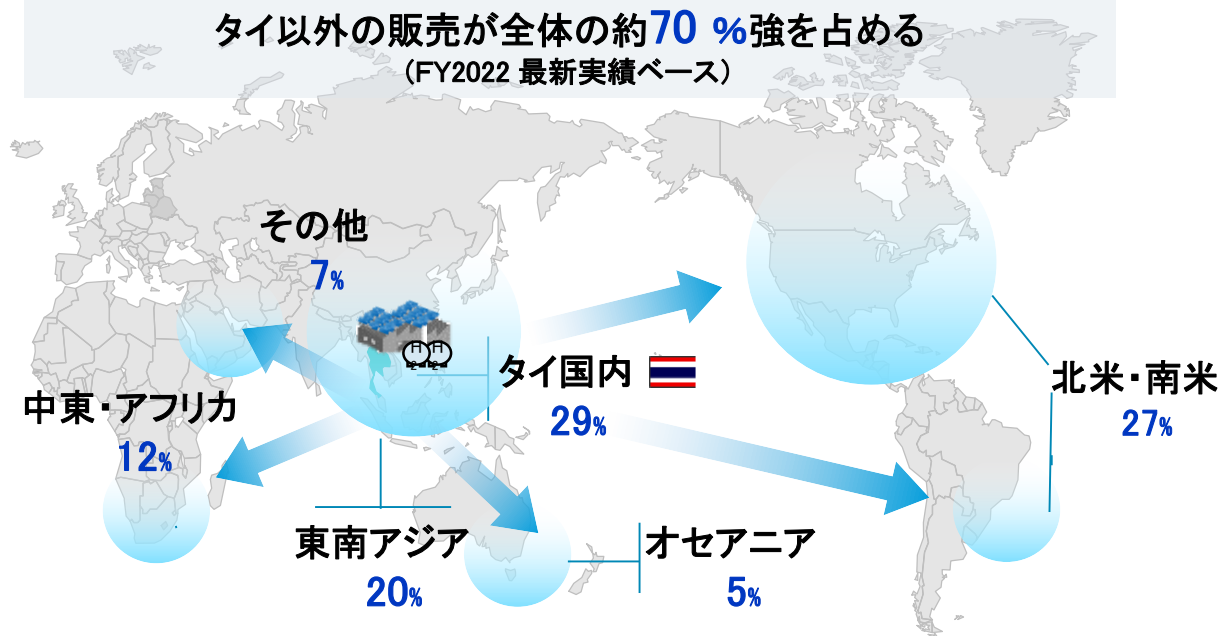
- 有利子負債残高
- D/Eレシオ(右軸)



タイ(UATH)の状況 ～2022年度 3Q総括

グローバルでの旺盛な缶材需要、エアコンフィン材需要の取り込みにより増収増益

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



収益変動要因と改善への打ち手

- 添加金属価格の高騰
 - エネルギーコストの高騰
 - グローバルでの旺盛な需要環境
-
- 添加金属の高騰分の転嫁は、おおよそのお客様と合意
 - エネルギーコスト高騰分の転嫁は、新規契約・契約更新時に盛り込む
 - 旺盛な需要を背景に、価格交渉を継続

3Q 総括

- 需要** : 世界的な半導体不足による自動車生産調整の影響あるも、缶材・フィン材の堅調な需要は継続
- 販売** : 好調な缶材に加え、エアコンフィン材の販売好調
- 生産量** : **27千t/月** (2022年1～9月)
- 販売量** : **27千t/月** (2022年1～9月)

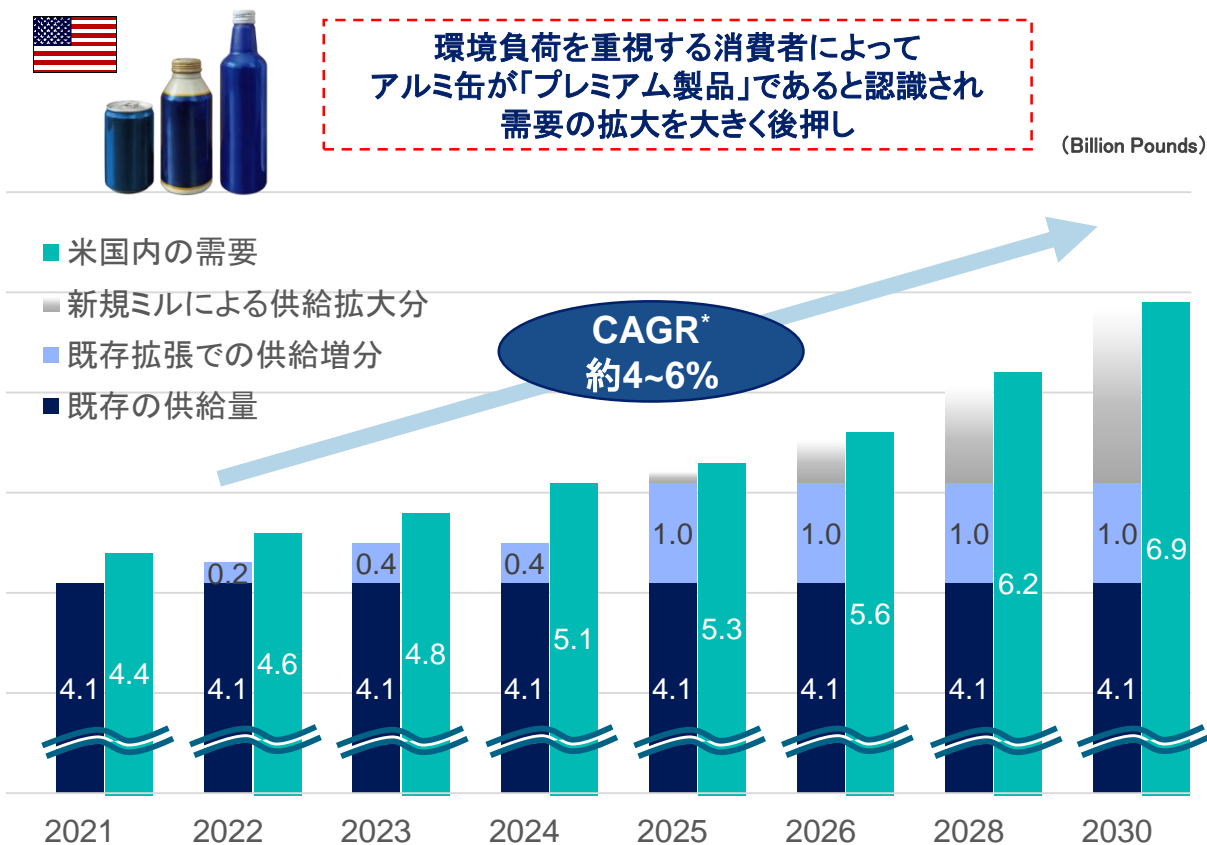
(単位: 億円)

損益	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	前年同期比
売上高	957	1,449	492
営業利益	61	46	△ 15
棚卸資産影響前 経常利益	△ 5	28	32
経常利益	18	19	0

米国(TAA)の状況 ~2022年度 3Q総括

旺盛な米国缶材需要を捉え、増収・増益(棚卸影響前経常利益)

米国缶材需要と国内供給能力の推移



出典: UACJ調査による

3Q 総括

缶材需要 : 長期的に旺盛な需要環境継続

販売量 : 44千t / 月 (2022年4~12月)
※国内・UATH出荷分含む

生産能力 : 約450千t / 年体制確立

増産対応 : 北米生産拠点の設備増強

損益 :

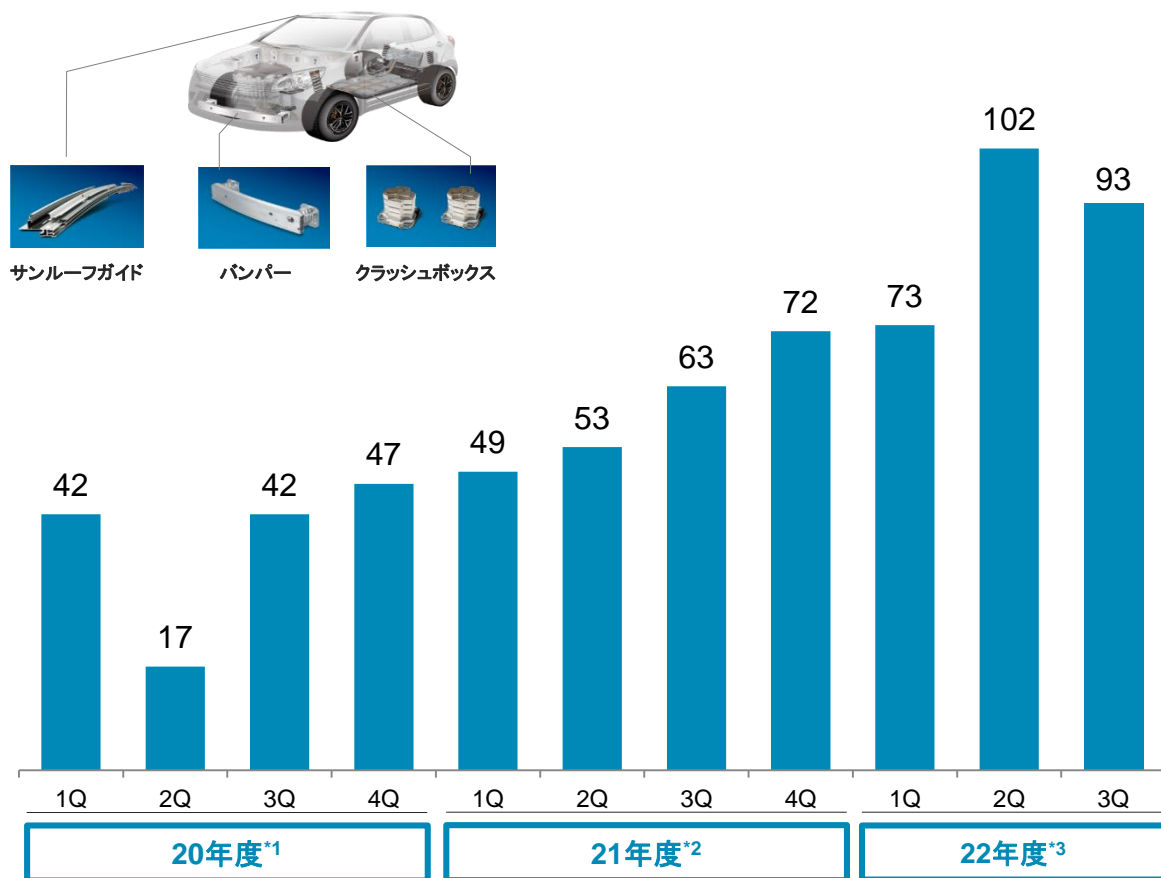
	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	前年同期比
売上高	1,712	2,239	527
営業利益	223	28	△ 195
棚卸資産影響前 経常利益	72	114	42
経常利益	205	△ 4	△ 209

(単位: 億円)

米国(UWH)の状況 ~2022年度期 3Q総括

受注済大型案件の生産が始まるも、自動車生産混乱の影響を受け実需に期ズレが生じる

UWH 売上高推移(単位:億円)



3Q 総括

市場環境 : ・米国政府のバイ・アメリカン法により、EV需要は増加

販売 : ・半導体不足等による自動車生産混乱の影響を引き続き受け、実需の期ズレが生じている
・売上高増加は、アルミ地金価格の高騰影響

生産体制 : ・新ライン稼働開始も、販売影響で低稼働
・自動化、コスト削減などの施策を実施し、加えて、さらなる追加施策を検討中

(単位:億円)

損益	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	前年同期比
売上高	165	268	103
営業利益	△ 17	△ 23	△ 6
棚卸資産影響前 経常利益	△ 19	△ 33	△ 14
経常利益	△ 19	△ 31	△ 12

*1 20年度…2020年1月～12月

*3 22年度…2022年4月～2023年3月

*2 21年度…2021年4月～2022年3月

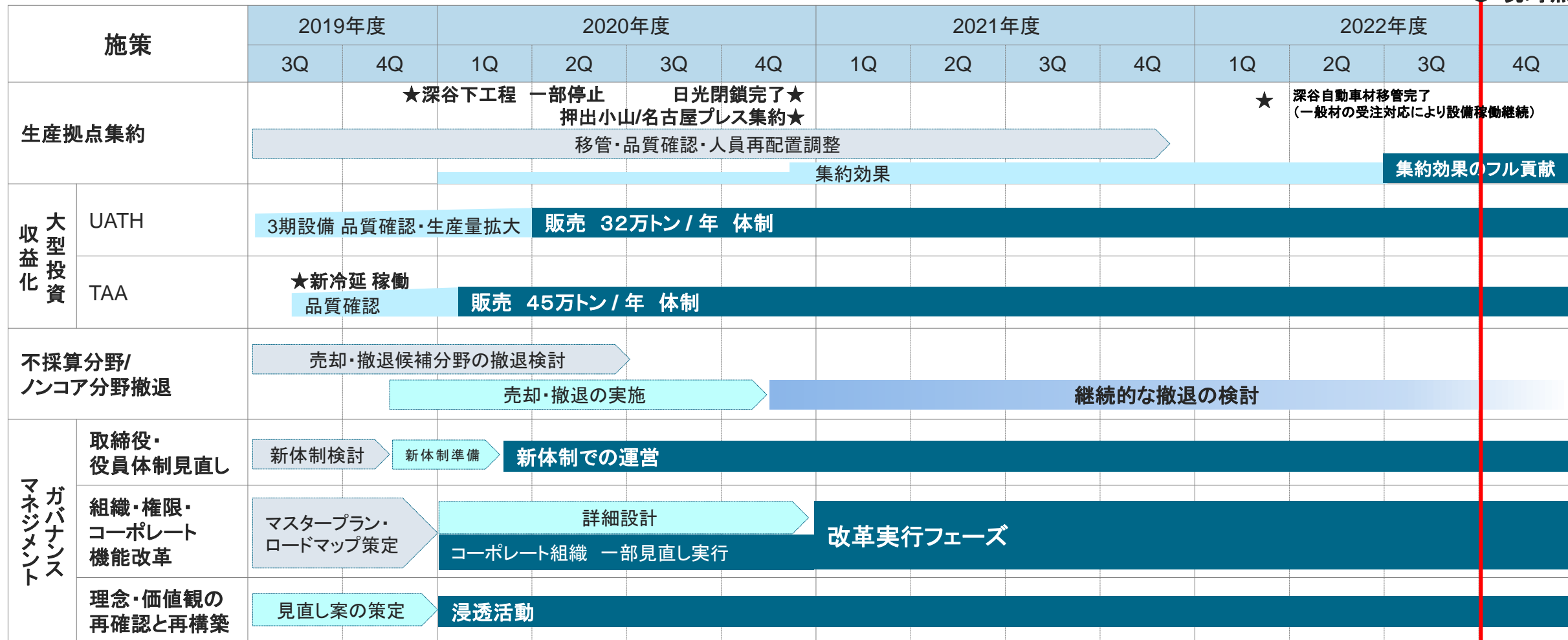
2. 構造改革の進捗



構造改革の進捗

全社一丸となって、構造改革3年の集大成へ

● 現時点



構造改革実施による収益改善効果

収益構造の改革・大型投資の収益化を実現し、210億円を達成へ

	構造改革発表時 (2019年9月)	第3次中計発表時 (2021年5月)	2022年度 上期決算発表時 (2022年11月)	最新見通し
国内 : 収益構造改革	+100億円	+67億円	+101億円	+101億円
生産拠点集約	+40億円	+34億円	+21億円	+21億円
最適生産体制・品種構成改善(自動車材・電池材増加)	+50億円	+25億円	+70億円	+70億円
間接費削減(間接人員削減等)	+10億円	+8億円	+10億円	+10億円
海外 : 大型投資収益化	+110億円	+118億円	+109億円	+109億円
UATH 第3期投資稼働開始で、販売量拡大とコスト削減	+70億円	+76億円	+70億円	+78億円
TAA 増産投資完了による販売量増加、価格改定実現	+20億円	+19億円	+46億円	+46億円
UWH 収益性重視の受注、押出機を生かし売上拡大	+20億円	+23億円	△7億円	△15億円
構造改革効果	+210億円	+185億円	+210億円	+210億円

3. 2022年度 通期業績見通し



経営環境認識

全体

- 消費者の環境意識向上に伴い、グローバルで缶材、自動車材を中心にアルミニウム素材の需要は、中長期的な増加基調に変化なし
- 自動車関係のサプライチェーンの混乱と、北米缶材の在庫調整影響は2023年度下期からの回復を見込む
⇒需要が厳しい中ではシェア維持・向上につとめ、さらなるコスト低減を推進
⇒2023年度はエネルギー、添加金属の市場価格に連動した値決めスキームが年間を通して効果顕現

缶材

国内:人口減少に反し底堅い需要の中、販売量の増加に向けた活動を実施
グローバル:足元の景況感やインフレ影響、サプライチェーン混乱で生じた過剰在庫消化の影響を一時的に受けるも、中長期的には、旺盛な需要環境継続を見込む

自動車材

国内板材:福井製造所への生産移管完了により、集約効果を最大限発揮していく
UWH:期ズレした実需の回復に備え、ライン自動化やコスト削減などの施策を実施

その他

厚板:短期的には調整局面も、半導体製造装置向けは中長期では需要は堅調
IT材:足元は在庫調整の局面も、今後DXや5G関連用途への需要拡大を見込む
エアコンフィン材:欧州・東南アジアを中心としたグローバルでのエアコン用途拡大により、フィン材需要拡大
印刷版材:国内回帰の需要取り込みにより販売増加
⇒「強固な顧客基盤」や「多品種・多用途への対応力」を活かし、好調な分野で利益を確保していく

2022年度 通期業績見通し

(単位:億円)	2022年度 (11月時見通し) (A)	2022年度 (最新見通し) (B)	2021年度 (実績) (C)	増減 (B)－(A)	増減 (B)－(C)
連結売上高	9,000	9,000	7,829	0	1,171
連結営業利益	210	170	595	△ 40	△ 425
棚卸資産影響前 連結経常利益	235	200	213	△ 35	△ 13
棚卸資産影響額	△ 80	△ 100	310	△ 20	△ 410
連結経常利益	155	100	523	△ 55	△ 423
連結当期純利益	100	70	321	△ 30	△ 251
Adjusted EBITDA	628	618	602	△ 10	16
年間配当	85円/株	85円/株	85円/株	—	—

3. 2022年度 通期業績見通し

セグメント別 売上高・営業利益見通し

(単位:億円)

	2022年度 11月時点見通し (A)		2022年度 (最新見通し) (B)		2021年度 通期実績 (C)		増減 (B) - (A)		増減 (B) - (C)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ 圧延品	7,890	256	7,890	218	6,975	641	0	△ 38	915	△ 423
加工品・ 関連事業	2,040	15	2,040	8	1,648	11	0	△ 7	392	△ 3
(調整額)	△ 930	△ 61	△ 930	△ 56	△ 793	△ 57	0	5	△ 137	1
合計	9,000	210	9,000	170	7,829	595	0	△ 40	1,171	△ 425

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

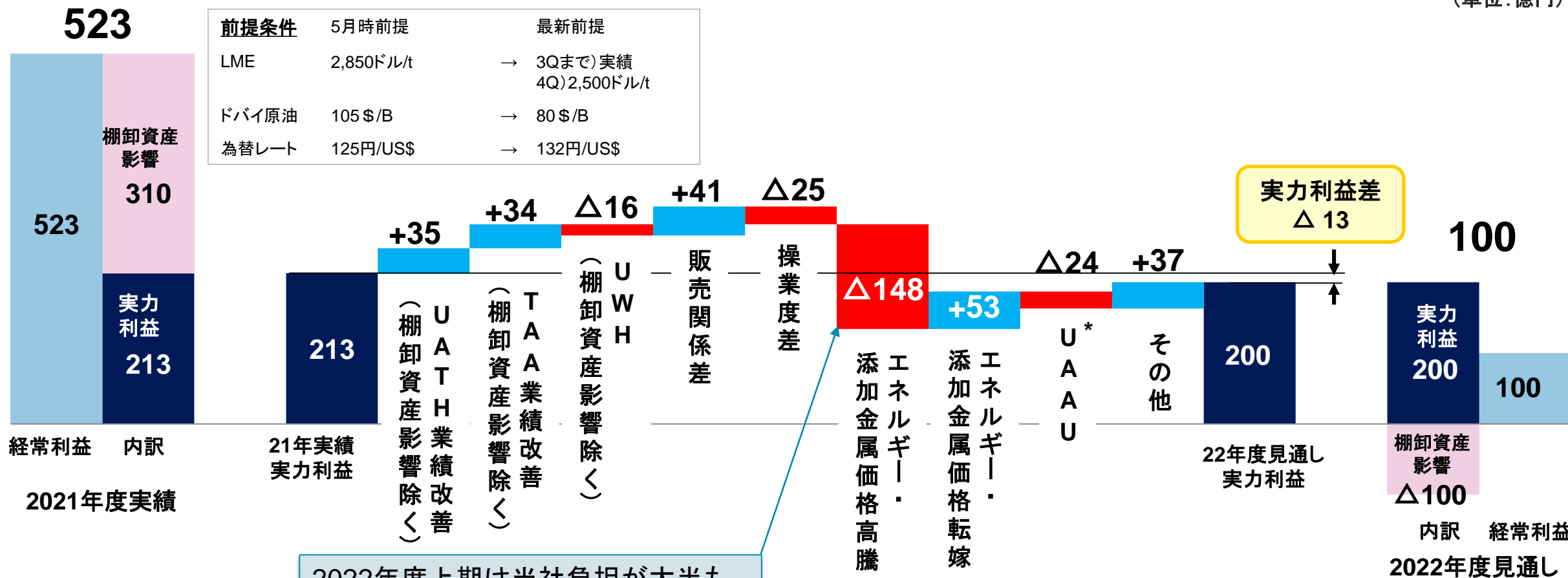
(単位:千トン)

品 種	2022年度 (11月時見通し) (A)	2022年度 (最新見通し) (B)	2021年度 (実績) (C)	増 減 (B) - (A)	増 減 (B) - (C)
缶 材	904	864	816	△ 40	48
箔 地	47	46	56	△ 1	△ 10
I T 材	11	9	14	△ 2	△ 5
自動車材	128	125	138	△ 3	△ 13
厚 板	58	52	53	△ 6	△ 1
その他一般 材	240	230	216	△ 10	14
合 計	1,389 国内市場向け 494 海外市場向け 895	1,327 国内市場向け 475 海外市場向け 852	1,293 国内市場向 479 海外市場向 815	△ 62 国内市場向け △ 19 海外市場向け △ 43	33 国内市場向け △ 4 海外市場向け 37

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2021年度 → 2022年度最新見通し)

棚卸資産影響前連結経常利益: **213億円** (2021年度) → **200億円** (2022年度最新見通し)

(棚卸資産影響額: 310億円(2021年度) → Δ 100億円(2022年度最新見通し) Δ 410億円) (単位: 億円)



2022年度上期は当社負担が大半も、
10月以降は転嫁スキーム発動

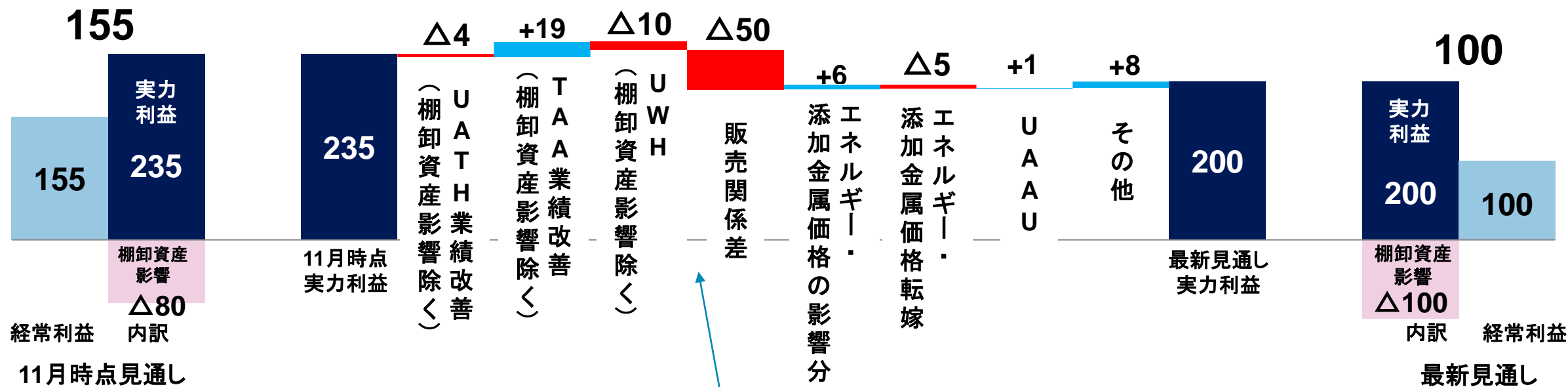
* UAAU : UACJ Australia Pty. Ltd.

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2022年11月見通し → 2022年度最新見通し)

棚卸資産影響前連結経常利益： **235億円** (2022年11月時見通し) → **200億円** (2022年度最新見通し)

(棚卸資産影響額: $\Delta 80$ 億円(2022年11月時見通し) → $\Delta 100$ 億円(2022年度最新見通し) $\Delta 20$ 億円)

(単位: 億円)



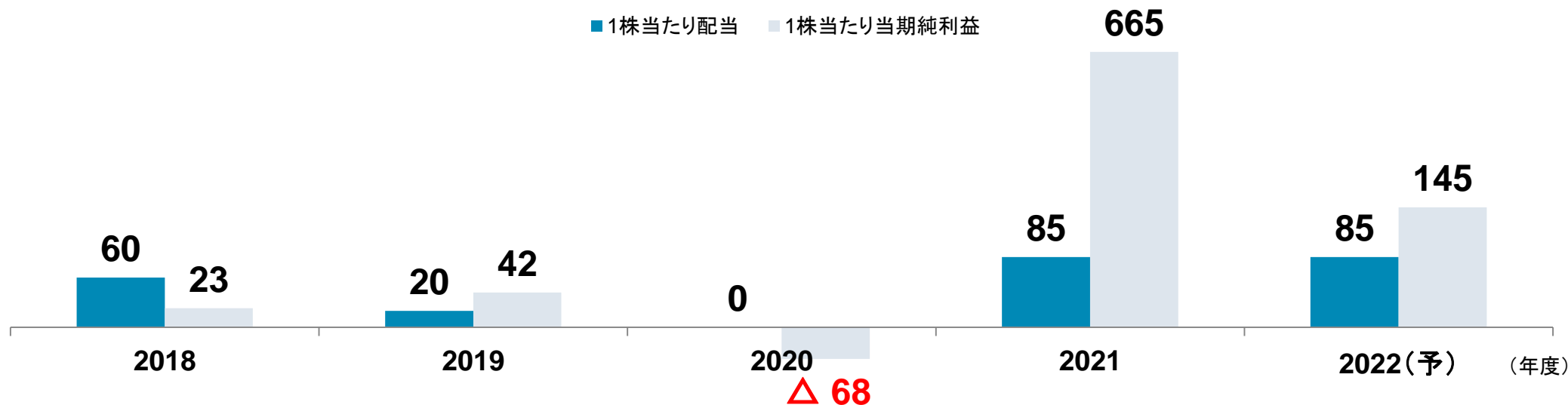
主に自動車関連の実需の期ズレの発生、一部製品の調整局面により、11月時点からの減益要因となる

株主還元

1株当たり配当金は85円で据え置く

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す

1株当たり配当 / 1株当たり当期純利益(円)



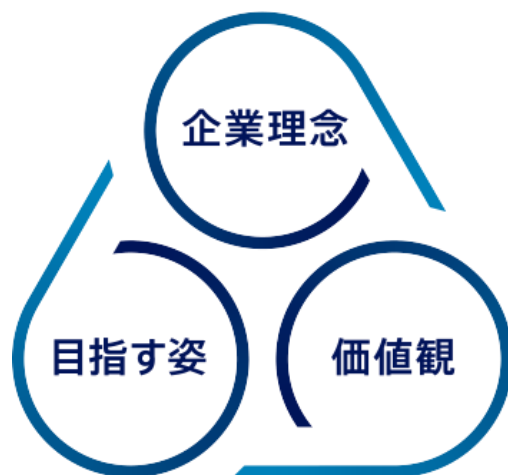
4. サステナビリティへの取り組み



企業理念とサステナビリティ基本方針

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな社会のために」

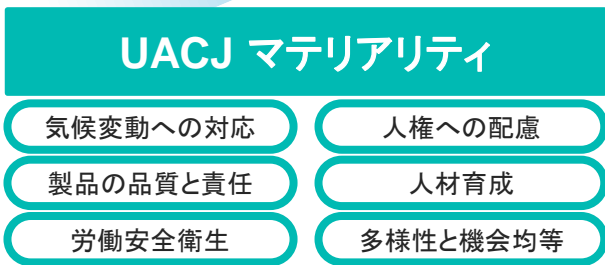
“UACJ VISION 2030” で目指す社会課題の解決

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献する



付加価値の追求

社会課題の解決



VISION 2030

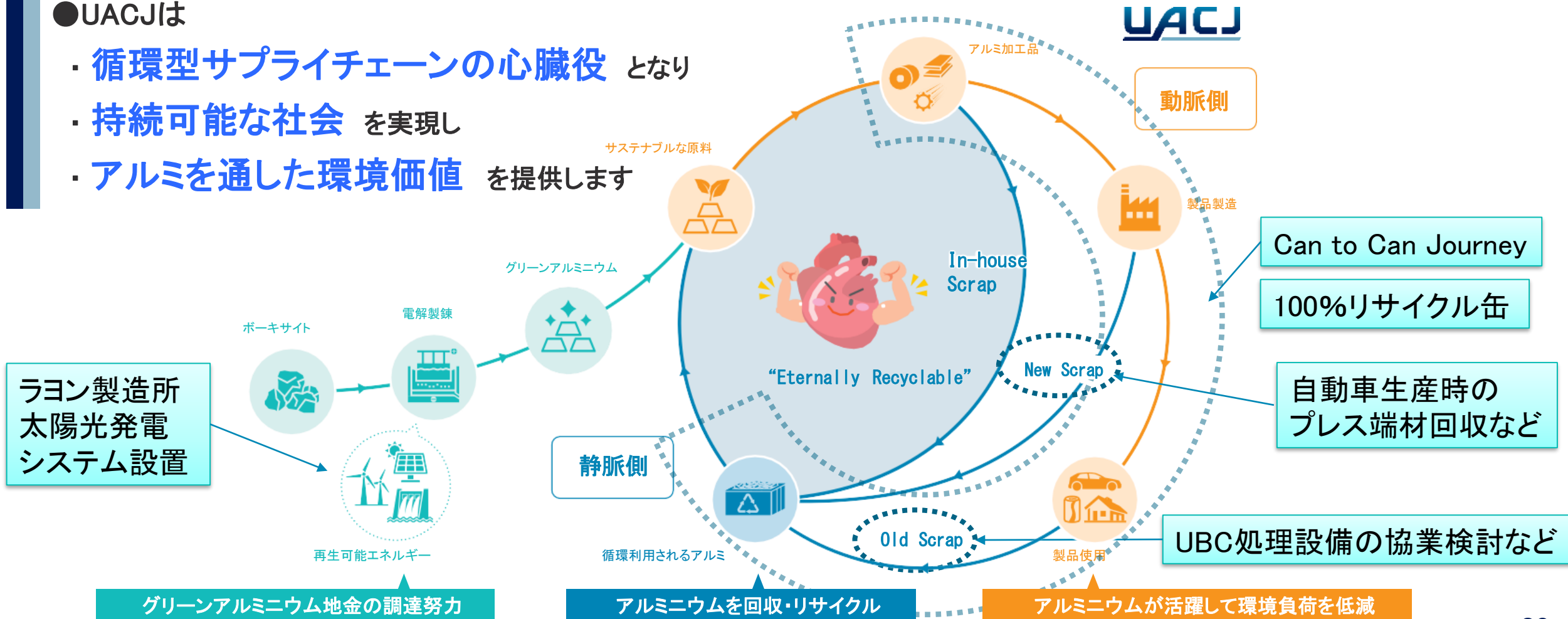
- ・成長分野や成長市場の需要捕捉により、より広く社会の発展に貢献
- ・素材+αで、社会的・経済的な価値の向上に貢献
- ・新規領域への展開により、社会課題の解決に貢献
- ・製品ライフサイクルでのCO₂削減により、環境負荷の軽減に貢献



社会課題の解決 - アルミで創る循環の輪～サーキュラーエコノミーの心臓へ

●アルミニウムは
『何度でも』『永久に』リサイクル可能な素材です

- UACJは
- ・循環型サプライチェーンの心臓役 となり
 - ・持続可能な社会 を実現し
 - ・アルミを通じた環境価値 を提供します



4. サステナビリティへの取り組み

ESG説明会を開催



質疑応答の様子

■ 当社初開催となるESG説明会を、対面＋WEBで実施

開催日：2022年11月29日（10:00-12:00）

「100年続く軽やかな社会のために」をテーマとして掲げ、環境、人材、リスクマネジメント等、当社のサステナビリティの考え方について説明

アルミニウムの素材としての将来性、アルミニウムのリサイクルに関する優位性をベースに当社の目指す方向性を強く訴求した

登壇者	代表取締役社長	石原 美幸
	取締役 常務執行役員	田中 信二
	専務執行役員	山口 明則
	執行役員	隈元 穰治
	サステナビリティ推進部 主査	野瀬 健二

関連資料記載HP:

<https://www.uacj.co.jp/ir/other/events.htm>

ASI*1 本認証取得

ASI CERTIFICATION
PERFORMANCE
STANDARD



PRESENTED TO

UACJ CORPORATION

CERTIFICATE NUMBER 178	ASI STANDARD PERFORMANCE STANDARD (V2 2017)	CERTIFICATION LEVEL FULL CERTIFICATION	ASI ACCREDITED AUDITOR ERM CERTIFICATION AND VERIFICATION SERVICES
DATE OF ISSUE 5 JANUARY 2023	DATE OF EXPIRY 4 JANUARY 2026	CERTIFIED SINCE 14 FEBRUARY 2022	

AUTHORISED BY

Aluminium Stewardship Initiative Ltd
ACN 606 661 125, Australia
info@aluminium-stewardship.org

Validity of this Certificate is subject to continued conformance with the applicable ASI Standard and can be verified at www.aluminium-stewardship.org

CERTIFICATION SCOPE

Manufacture of aluminium plate products at Fukui Works, Japan and UACJ (Thailand) Co., Ltd., Thailand.

ASI(Performance Standard*2)が暫定認証から本認証に移行

〈これまでの経過〉

- 2020/7/2 ASI加盟(日系アルミニウム圧延メーカーとして初加盟)
- 2022/2/14 Performance Standardの暫定認証取得
- 2022/3/10 Chain of Custody Standard*3の本認証取得
- 2022/8 現地監査を実施(福井製造所/UACJ、ラヨン製造所/UATH)
- 2023/1/5 監査の結果、Performance Standardの暫定認証が本認証へ移行 ⇒ 認証のステップが完了**

アルミニウム業界のグローバルスタンダード策定に積極的に関与し、
お客様・仕入先様との協働で持続可能なアルミニウム事業の実現を追求していく

*1 Aluminium Stewardship Initiative アルミニウムのサプライチェーンにおけるサステナビリティ向上を目指す国際イニシアチブ

*2 企業統治・環境・社会的責任について、持続可能性や透明性を高めるための基準

*3 加工・流通過程までの持続的な開発のための基準

4. サステナビリティへの取り組み

UATHが「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022」で4年連続プラチナレベルを受賞



受賞の様子

(右:アマタファシリティサービス アカレース・シューシューイ社長、
左:UATH チャヤン・チャイチャン シニアマネージャー)



「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022」
プラチナレベルトロフィー

UATHがラヨン製造所を構えるアマタシティ^{*1}での、「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022 / AMATA BEST WASTE MANAGEMENT AWARD 2022」において「プラチナレベル^{*2}」を受賞
4年連続のプラチナレベルの受賞で、今回は初めてフルスコアを獲得

「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022 / AMATA BEST WASTE MANAGEMENT AWARD 2022」

本賞は、3R原則(リデュース・リユース・リサイクル)と埋立廃棄物の削減、その他廃棄物を効果的に管理している企業を表彰するもので、アマタ工業団地として産業廃棄物への意識を高め、効果的な管理を奨励することが目的

今後も環境負荷低減に貢献し、引き続き拠点周辺の地域社会との関係構築に努め、
持続可能で豊かな社会の実現に貢献していく

*1 アマタシティ・ラヨンとアマタシティ・チョンブリの2つの地域で成る工業団地。ラヨン製造所(UATH)が位置するアマタシティ・ラヨンは、バンコク中心部から114km、スワンナプーム空港から99kmにあるラヨン県に開発された大規模な工業団地で、総面積はおよそ27km²。

*2 70%以上のスコアを獲得した企業が認定されるレベル

次世代育成への貢献活動 / 生物多様性への貢献活動

UACJ野球教室(福井県坂井市)の開催



東京ヤクルトスワローズのキャッチャー中村悠平選手、東京ヤクルトスワローズOBの内藤尚行さん(通称 ギャオス内藤さん)、宇佐美康広さん、村中恭兵さんを招き、リトルリーグに在籍する小学生を対象とした「UACJ野球教室」を福井県坂井市で開催

将来を担う子どもたちにスポーツの楽しさや魅力を伝え、スポーツの振興および地域における次世代育成を目指し、活動を展開していく

「30 by 30」への参加、森林整備活動の実施



当社グループは生物多様性保全を重要な地球環境問題の一つと認識し、その方針と考えを一にする「30 by 30」活動に参加。

具体的な取り組みとして、「福井県及び坂井市と企業の森づくりに関する協定」を締結、坂井市から「UACJ福井の森」を借り受け、森林整備活動を実施

地域の環境保全活動の強化、地域社会との関係性強化や、従業員の環境意識向上を目指し、活動を展開していく

5. ご参考データ



UACJグループ理念

当社の存在意義(パーパス)を問い直し、グループ理念体系を再定義



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心



行動指針/UACJウェイ



CDP「気候変動」、「水セキュリティ」でB評価を獲得



環境情報開示イニシアチブであるCDPによる調査「CDP2022」において、「気候変動」「水セキュリティ」の両部門で「B(マネジメントレベル)」の評価を受けた

CO₂排出量の削減、環境保全に関する取り組み事例

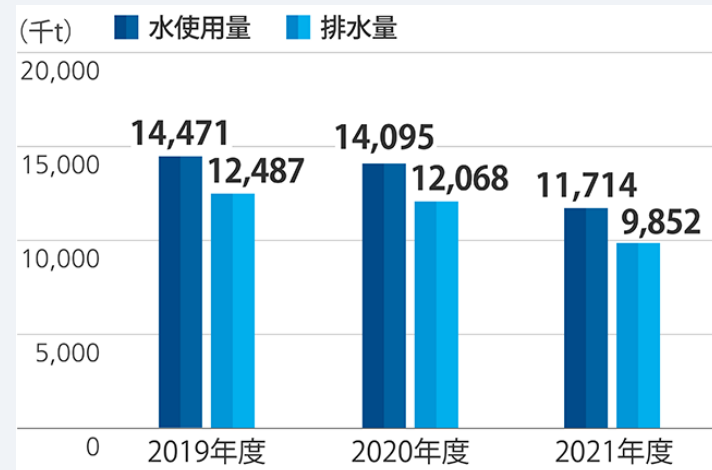
ラヨン製造所(UATH)に太陽光発電システムを導入



その他の取り組みの詳細はこちら

<https://www.uacj.co.jp/sustainability/environment/index.htm>

水使用量および排水量の推移の統計を継続



気候変動対策および脱炭素社会への移行に積極的に取り組むことが総合アルミニウムメーカーとしての重要な社会的責務と認識

今後も「100年後の軽やかな社会」の実現を目指し、サステナビリティ経営の推進で持続的な企業価値向上に努める

CDP (<https://japan.cdp.net/>)

ロンドンに本部を置き、全世界18,000社以上の企業を対象に環境への取り組みに関する評価・開示を行う国際的な非政府組織。評価は、ガバナンス、リスクと機会、事業戦略、目標と実績、エンゲージメントなどの項目で行い、リーダーシップレベル(A、A-)、マネジメントレベル(B、B-)、認識レベル(C、C-)、情報開示レベル(D、D-)の8段階に格付けする。

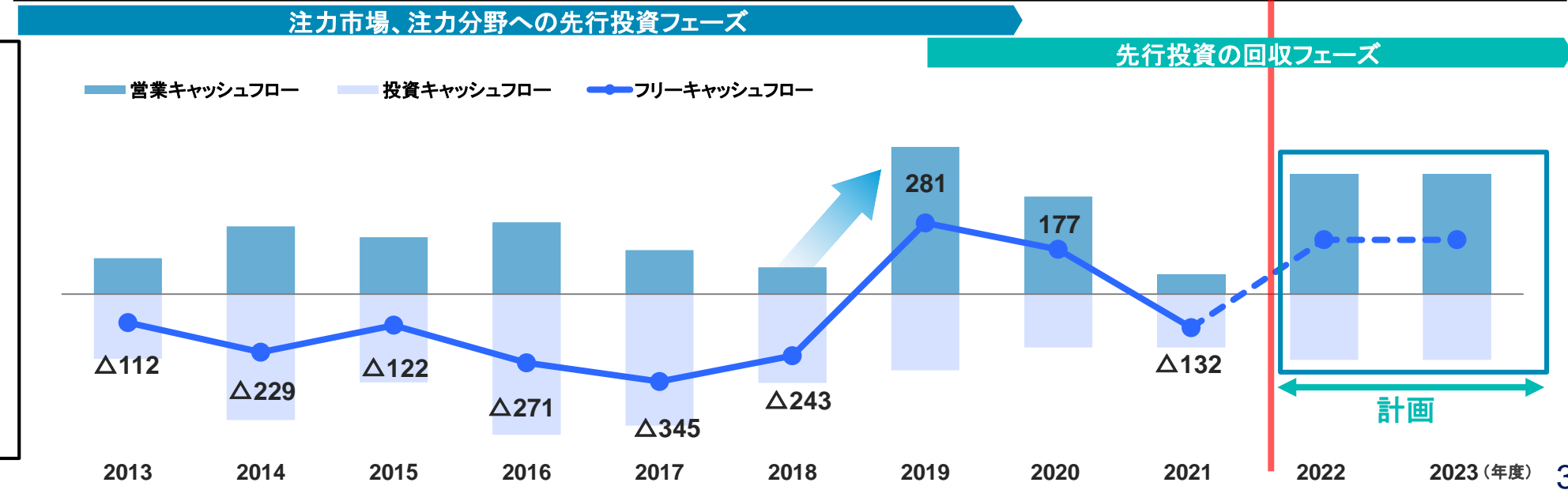
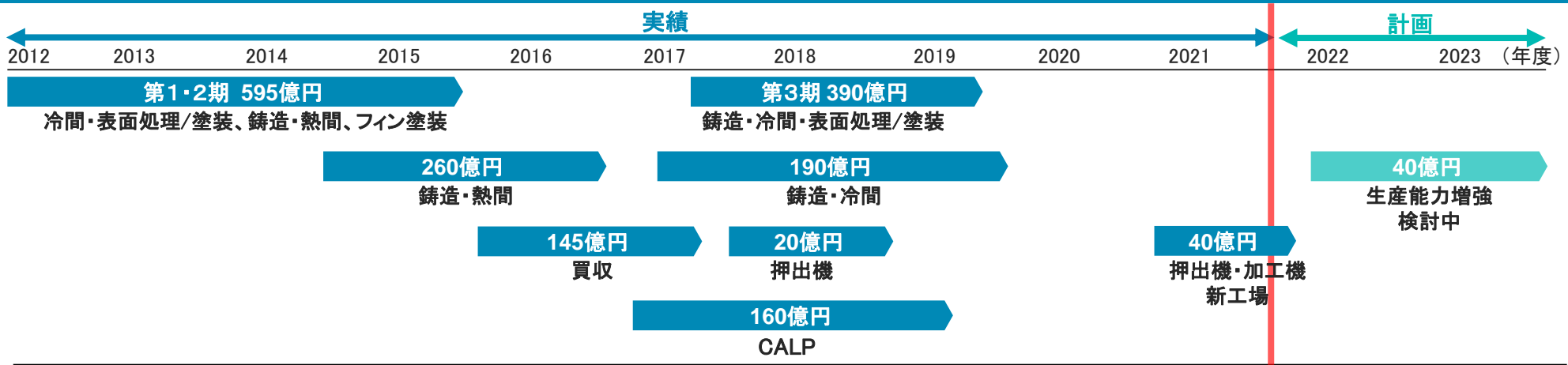
2000年の発足以来、グローバルな環境課題に関するエンゲージメント改善に努めている。

アルミ圧延事業の産業構造について(投資とリターンの関係性)

生産立上げから量産、投資の回収まで5年以上要する中、19年度より投資回収フェーズへ

主な戦略投資／投資

UATH (タイ)	985億円
TAA (米)	490億円
UWH (米)	205億円
福井	160億円



連結キャッシュフロー

2013-2021年度 実績
2022-2023年度 計画

諸元と感応度

	2020年度 (3月末)	2021年度 (3月末)	2022年度 (12月末)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	243	378	406	10円/kg上昇した場合 → +20~30億円/年
LME (米\$)	1,802	2,796	2,478	\$100/t上昇した場合 → +22~35億円/年
為替 (円/米\$)	106	112	135	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属:円高が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.4	3.8	・ロールマージン、為替換算差:円安が有利
原油 (ドバイ:米\$)	45	78	92	10ドル上昇した場合 → Δ10~15億円/年

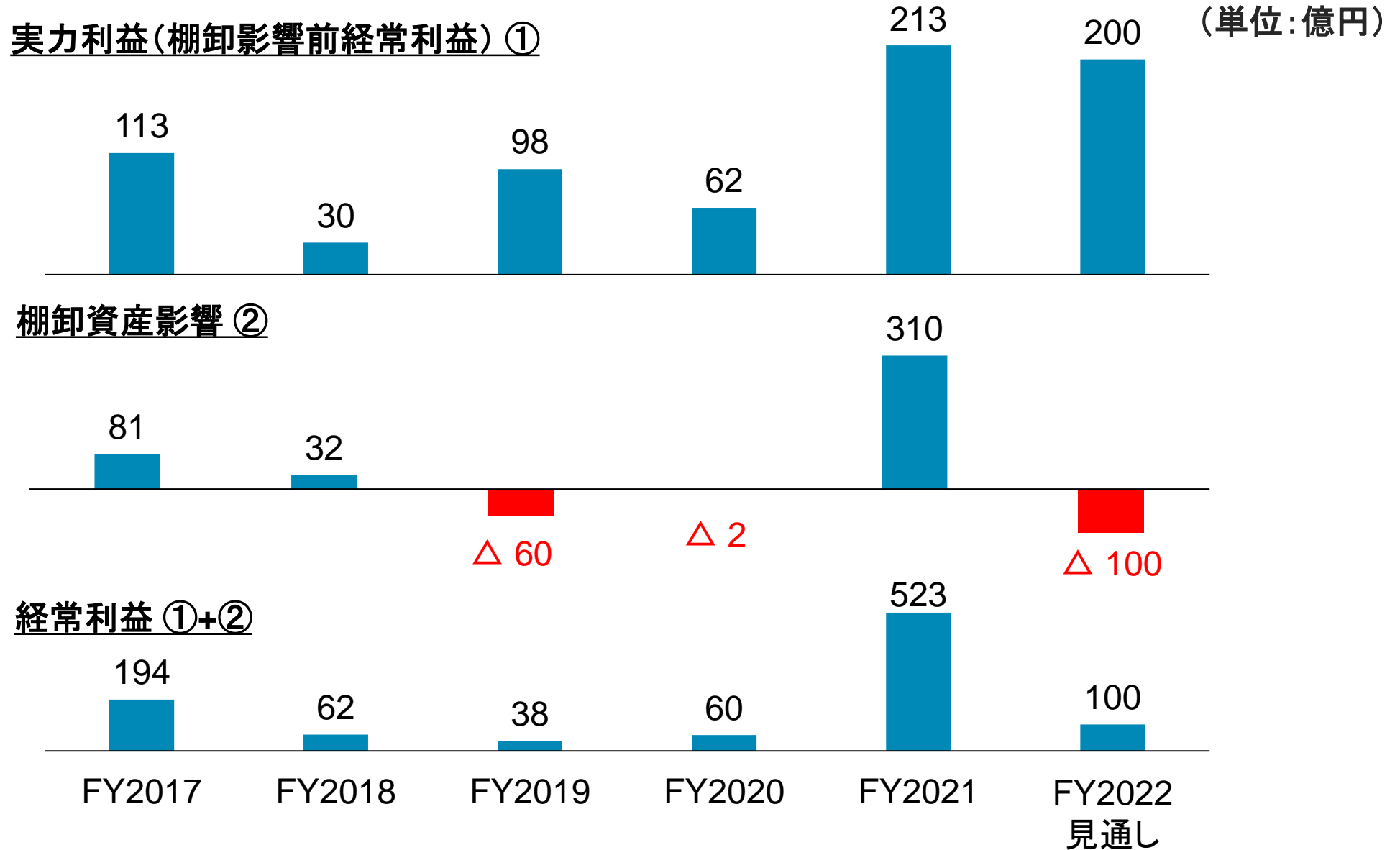
5. ご参考データ

主要指標推移

(単位:億円)

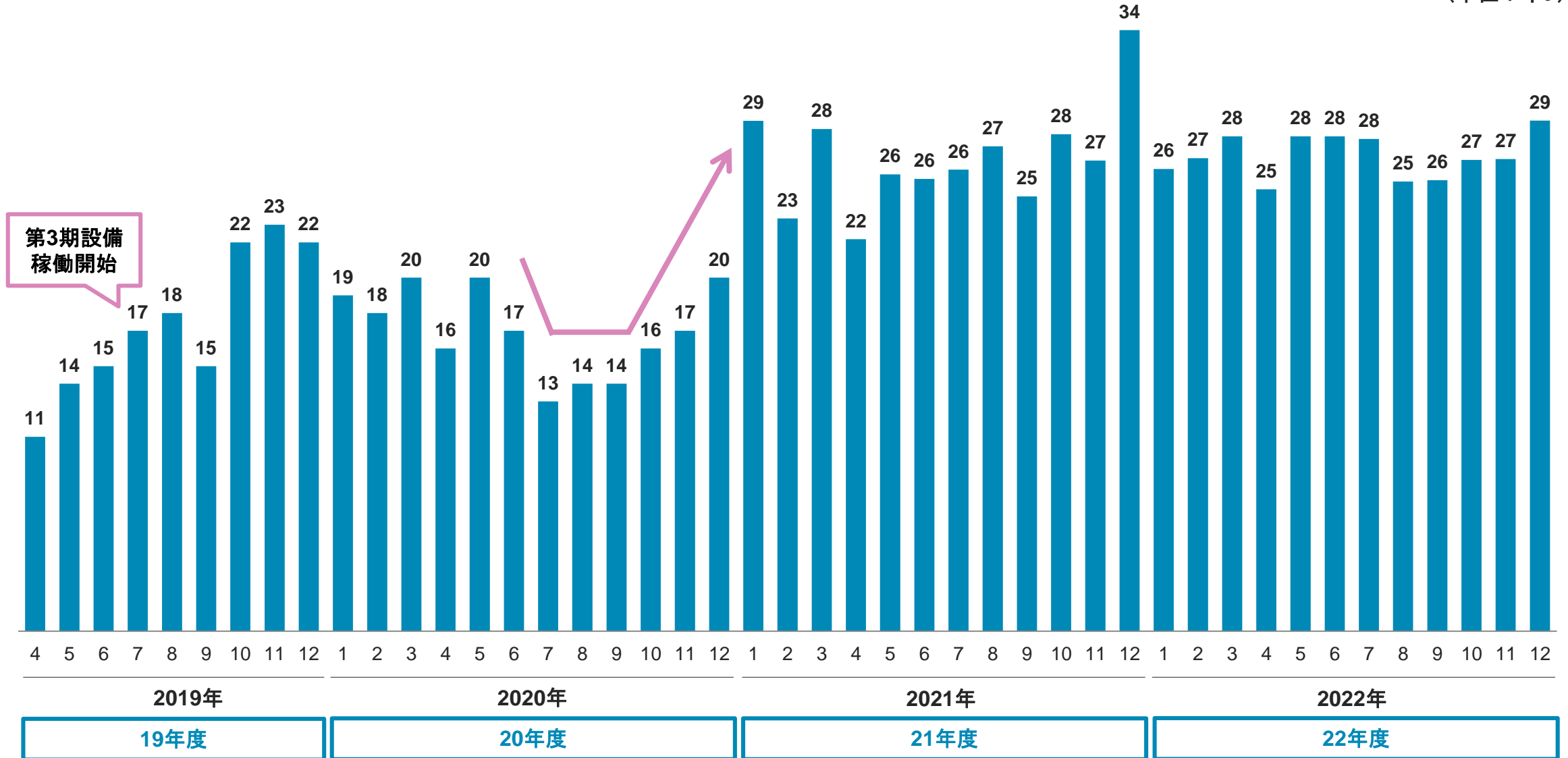
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 1Q(単期)	2022年度 2Q(単期)	2022年度 3Q(単期)	2022年度 3Q累計	2022年度 見通し	
連結売上高	6,243	6,613	6,152	5,698	7,829	2,473	2,425	2,385	7,283	9,000	
連結営業利益	292	149	101	111	595	183	32	△ 60	155	170	
棚卸資産影響前 連結経常利益	113	30	98	62	213	102	37	20	159	200	
連結経常利益	194	62	38	60	523	199	8	△ 102	105	100	
親会社株主に帰属する 当期純利益	123	11	20	△33	321	142	8	△ 78	74	70	
設 備 投 資	一般投資	147	161	143	109	129	25	48	42	115	255
	戦略投資	365	365	347	72	79	10	18	10	38	68
	合計	512	525	489	181	207	36	65	52	153	323
減価償却費	251	307	312	334	340	90	92	96	278	347	
有利子負債残高	3,423	3,751	3,440	3,358	3,394	3,787	3,890	3,713	3,713	3,600	
R O E (%)	6.5	0.6	1.1	△1.8	14.1	-	-	-	-	2.77	
R O I C (%)	5.8	2.3	1.9	2.2	11.1	-	-	-	-	2.88	
D / E レ シ オ (倍)	1.50	1.68	1.56	1.56	1.36	1.36	1.33	1.36	1.36	1.3	
営業キャッシュフロー	174	107	581	386	78	△94	△32	88	88	-	
投資キャッシュフロー	△519	△349	△300	△210	△210	△73	△130	△177	△177	-	
フリーキャッシュフロー	△345	△243	281	177	△132	△167	△163	△88	△88	-	

実力利益、棚卸資産影響、経常利益推移 (FY2017～FY2022)



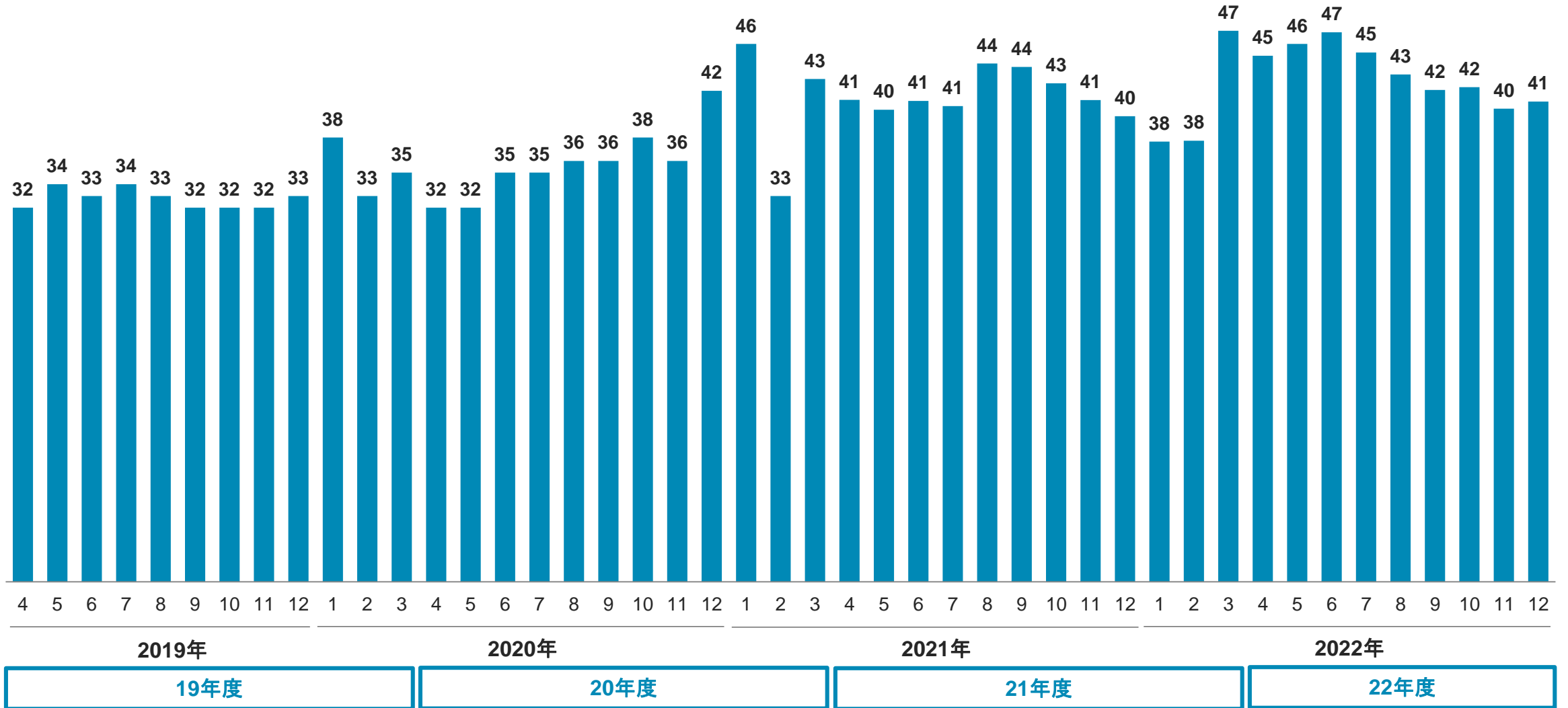
UATH 月次販売量推移

(単位：千t)



TAA 月次販売量推移

(単位：千t)



燃料単価推移



アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



棚卸資産影響

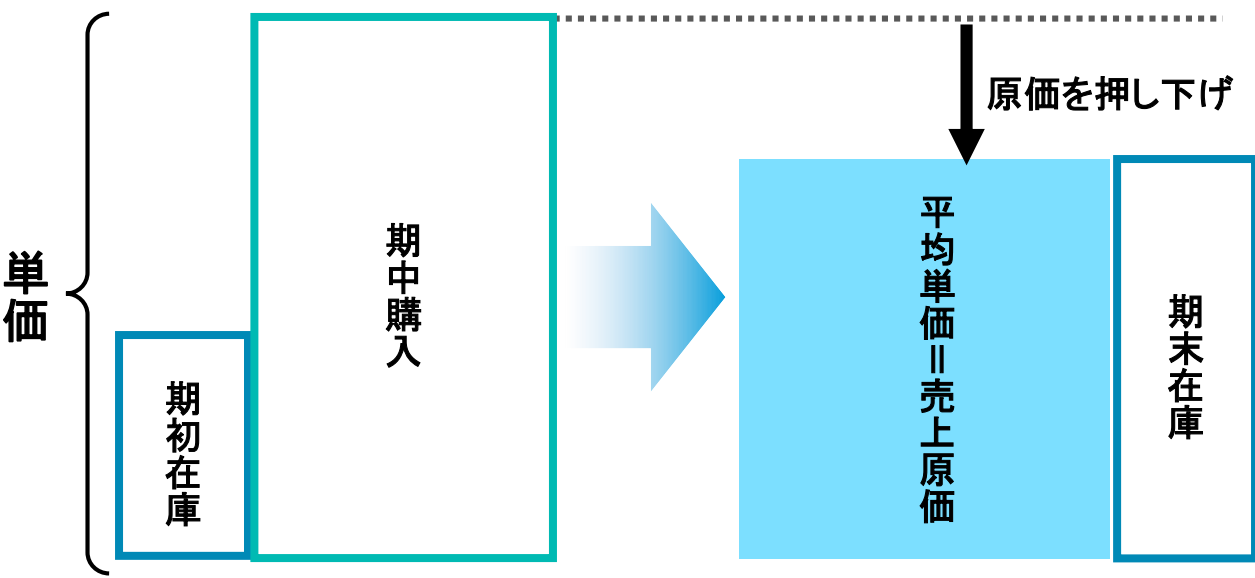
アルミ圧延事業における棚卸資産影響

- ① 平均法による材料費計算
期首在庫と期中購入アルミ地金の加重平均で、材料費を計算(期首在庫が影響)
- ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差

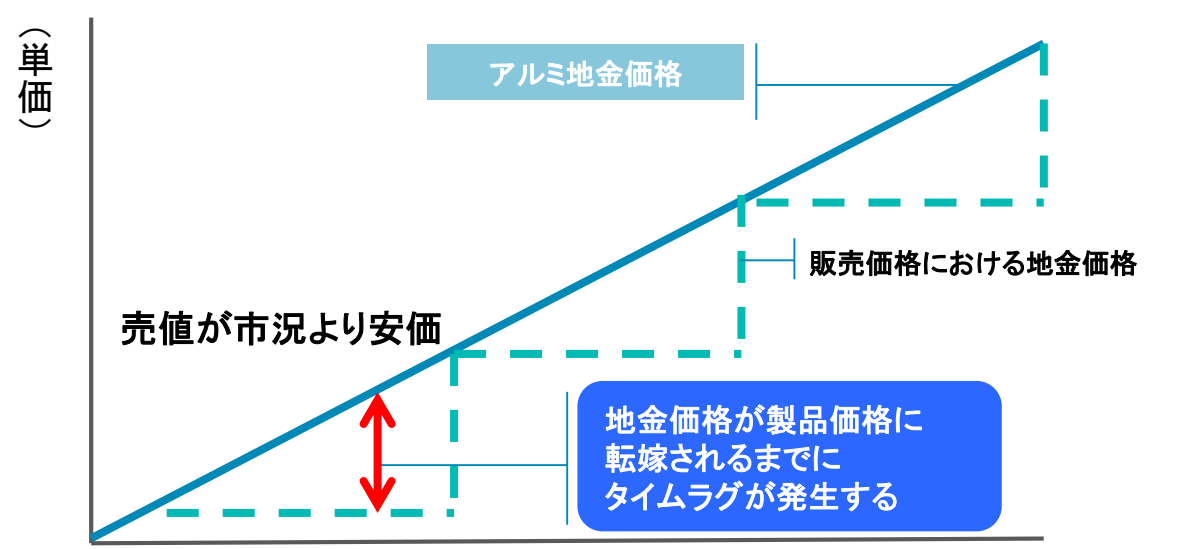
①+ ②= 棚卸資産影響

【2021年度:アルミ地金価格上昇】

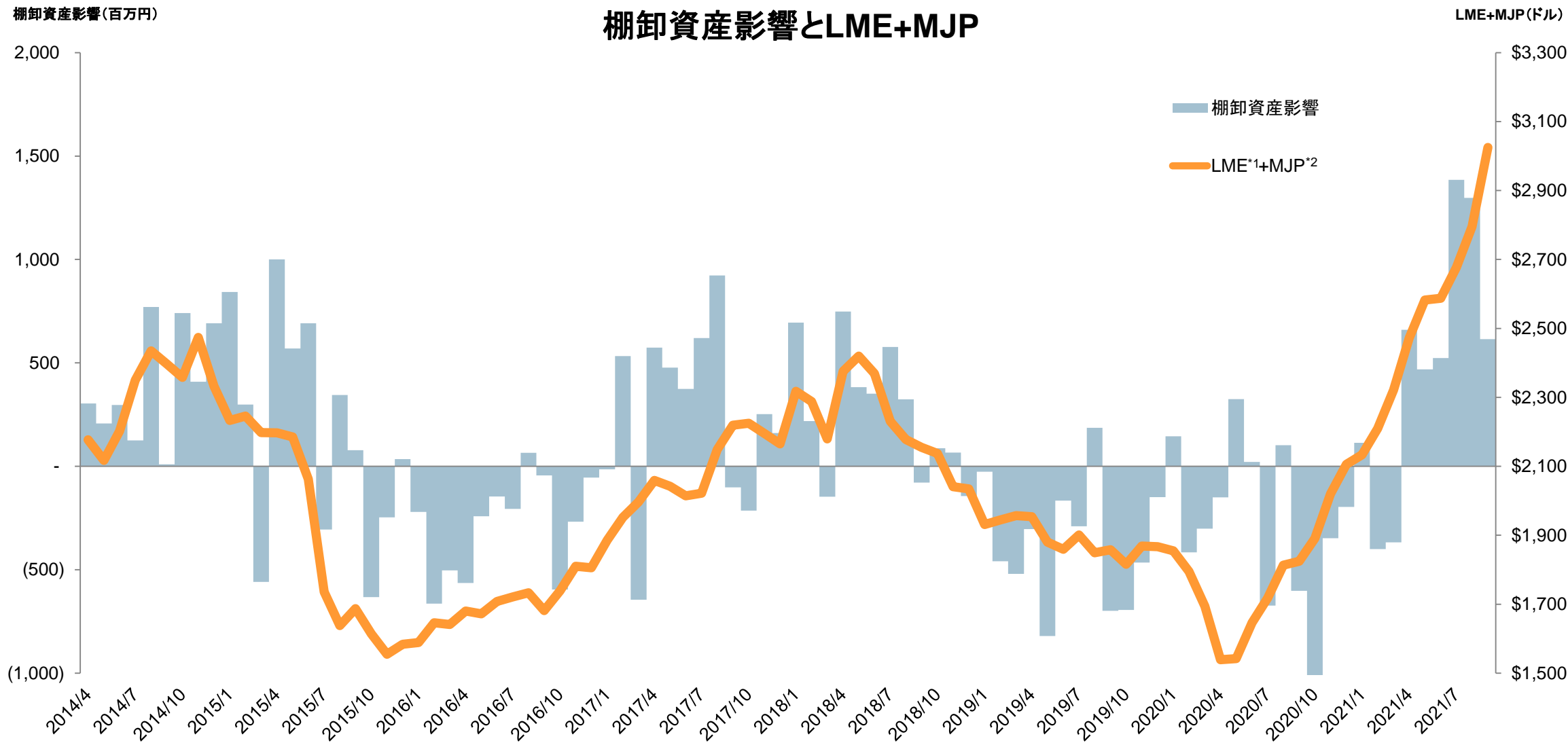
① 平均法による材料費計算



② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差



棚卸資産影響と地金価格相場の関係性



*1 LME ロンドン金属取引所(London Metal Exchange)に上場しているコモディティ
 *2 MJP 対日アルミ新地金プレミアム

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

web-contact-ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

(東証プライム 証券コード : 5741)



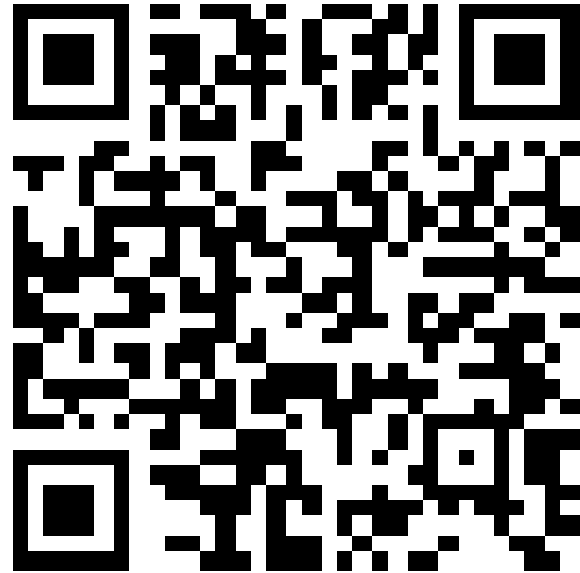
Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

アンケートのお願い

本日の説明会について、アンケートへのご協力をお願い申し上げます

皆様への情報提供など、今後のIR活動を従前に増して充実いたしたく、ご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです



ご登録いただく個人情報含む全ての情報は、本アンケートの上記目的以外には使用いたしません